

—衣服の着用状態について— (第2報)

—The state of using the dress— (Part 2)

In this report, we discuss about the problems of Japanese or Western clothes, examining the results of investigation about the state of using the dress. The method of investigations is described in part 1

About the 79% of the replies answered that, as their everyday use, they dress Western clothes almost always and often Japanese ones. It seems that the younger people dress the Japanese clothes only when ceremonial, and that the older they become, the more they prefer the Japanese ones as everyday use. The problems of Japanese clothes come from their function, from their care, from dressing up and from their expensiveness, while the Western have problems which come from the fashion, from body type and from their costs. But examining their dresses through all seasons, it can be said that they use suitable homewear or outdoor clothes for each of them, ascertaining each merit or demerit of the Japanese or Western clothes. When they select their dress, most of them think chiefly about the fundamentals of the type or the usefulness.

In consequence, it is necessary to improve the technique of make-up of the dress, resting on the bases of the usefulness, and also taking into account the beautifulness.

I 諸言

第1報では既製服時代がおとずれた今日でも、家庭生活における被服構成の必要性が高いことを述べた。今回は第1報に引き続き日常衣服の着用状態から和服および洋服のもつ問題点などを検討し、被服構成上の指針としたいと思う。

II 調査方法

第1報と同様である。即ち、調査は質問紙法により、その対象は東京都内の勤労者世帯である。

III 結果と考察

1 一年を通じての服装

第1図のとおりである。「洋服が多いが時々和服」を着用する人が各年代ともに多く、その平均は約79%であった。「洋服のみ」の人は約12%で、若い人ほど洋服を好み、年配者になるに

たがって「和・洋服半々」や「和服が多いが時々洋服」で過す人が多くなり、次第に和服を好む傾向がみられる。しかし、日常衣服の主体は洋服であろう。

2 和服着用者の頻度と機会

洋服が日常衣服として一般化されているので、民族衣裳としての和服着用者の頻度についてみると第2図のとおりであった。和服着用者の中で「時々和服を着用する」人が各年代ともに多く、その平均は約86%であり、若い人(20, 30代)よりも年配者ほど着用する人が多く、50代では特に著しかった。これは一年を通じての服装とほぼ一致しているのて生活の習慣性や保健衛生上からくる結果であろうと思われる。

次に和服を着用する機会については第1表のとおりである。

結婚式(76.2%)、お正月(60.4%)、外出・訪問(53.5%)などの順である。

若い人は結婚式、お正月などの礼装用として、年配者になると礼装用などの特殊な場合は勿論、外出・訪問などにも着用する人が多くなっていく。

このような着用状況から和服は礼装用や外出向きのものといえようか。

3 和服着用者の着つけ

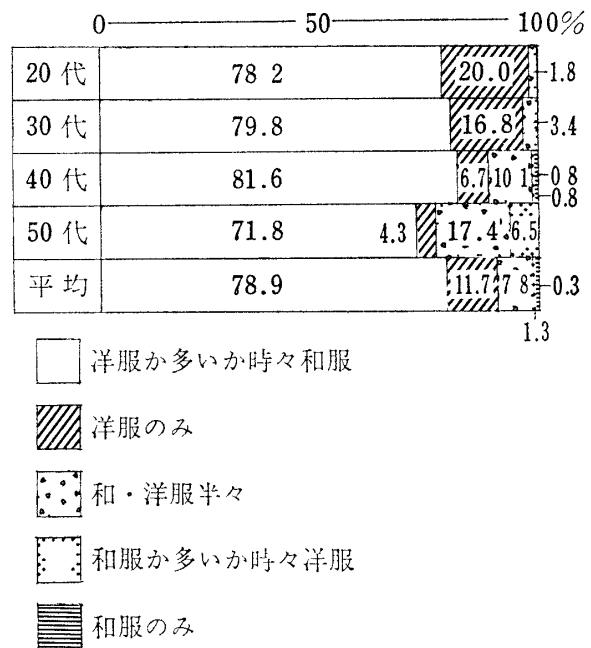
和服は洋服と異なった「着つけ」という問題があるので、和服着用者における「着つけ方」についてみると第3図のとおりであった。

「1人で着られる」人は55.3%と最も多く、「家庭着ぐらいならは着られる」34.8%で、和服着用者の約90%の人は和服の「着つけ」がてきえるようである。「着せてもらおう」という人は約10%で「和服を時々着用する」人や、若い人に多かったが、これは着物になれるという経験が乏しいからであろう。

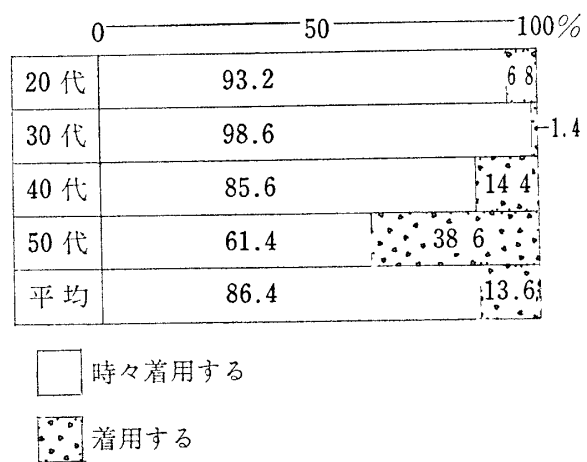
4 和服を着用しない人の着用しない理由

前項までは和服着用者について述べたが、和服を着用しない人の理由は第2表のとおりであった。

第1図 一年を通じての服装



第2図 和服着用者の頻度



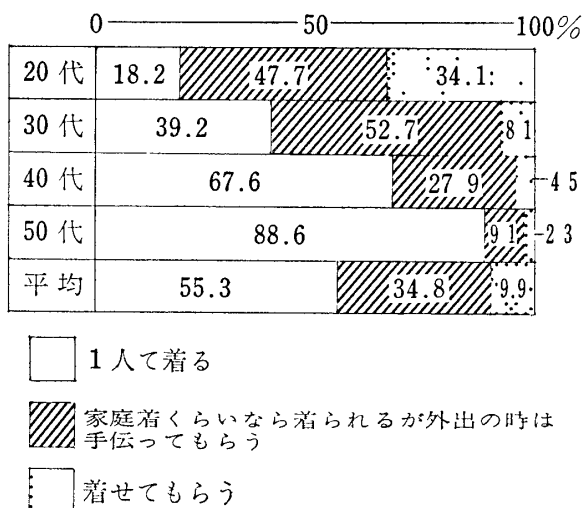
第1表

第1表 和服を着用する機会

年代	20代	30代	40代	50代	計
機会	44人(100%)	74人(100%)	111人(100%)	44人(100%)	273人(100人)
結婚式	36 (81.8)	53 (71.6)	84 (75.7)	35 (79.5)	208 (76.2)
お正月	36 (81.8)	44 (59.5)	66 (59.5)	19 (43.2)	165 (60.4)
外出・訪問	10 (22.7)	27 (36.5)	70 (63.1)	39 (88.6)	146 (53.5)
ふだん	4 (9.1)	10 (13.5)	13 (11.7)	10 (22.7)	37 (13.6)
おけいここと	4 (9.1)	9 (12.2)	10 (9.0)	7 (15.9)	30 (11.0)
その他	—	7 (9.5)	12 (10.8)	3 (6.8)	22 (8.1)
合計	90 (204.5)	150 (202.7)	255 (229.7)	113 (256.8)	608 (222.7)

④合計が100%をこえるのは複数回答による。

第3図 和服着用者の着つけ



第2表 和服を着用しない人の着用しない理由

着用しない理由	回答数	割合	
活動的でない	8人	25.0%	
経済上(高価)	5	15.6	
手入れ困難	3	9.4	
着つけ	着つけられない	8	28.1
	時間かかる	1	
都合上	多忙	4	25.0
	着る機会かない	2	
	持っていない	1	
	似合わない	1	
その他	めんどう	1	9.4
	着たいと思わず	2	
合計	36	112.5	

④合計が100%をこえるのは複数回答による。

和服を着用しない理由としては11項目あげられた。

そのうち「着つけ」についてあげている人が約28%と最も多く、「活動的でない」、「都合上」による人がそれぞれ25%、「経済上(高価)」が約16%の順となっていた。

これらの点から洋服が主体である今日では、洋服は立体型であることから着装が簡単で便利であるのに対して和服は平面型でつつむという形式であるために、「着つけ」に工夫を要するので、やはり困難なようである。

そこで、現代は昔の人には想像もつかなかったであろう「着つけ教室」などが出現したのもうなずけると思う。「着つけ」の解決策としては、前述したように、「きもの」になれ経験を重ねることが大切であろう。

5. 四季の装束

四季の主な服装を家庭着、外出着に分けてみると第3表の(1)、(2)、(3)のとおりであった。

第3表(1) 四季の服装(夏)

種類 年代	服装	家 庭 着					外 出 着					
		20代	30代	40代	50代	平均	20代	30代	40代	50代	平均	
洋	ブラウスとスカート	42%	64%	61%	74%	60%	29%	24%	18%	30%	23%	
	ブラウスとスラックス	15	17	5	2	10	6	3	2	4	3	
	ワンピース	64	63	65	87	67	87	91	87	72	86	
	ワンピースとセーター	4	—	3	—	2	—	1	4	7	3	
	セーターとスカート	20	9	3	20	10	5	2	4	2	4	
	セーターとスラックス	9	6	1	2	4	4	3	—	—	2	
服	ス	ニ ッ ト 系	—	1	3	4	2	7	2	16	15	10
	ツ		織 物 系	—	2	4	7	3	18	21	35	57
和	きもの	綿 織 物	6	9	13	17	11	—	—	—	9	1
		毛 織 物	4	2	—	7	3	2	—	2	2	1
		絹 織 物	—	—	—	2	—	5	5	11	28	11
		そ の 他	—	1	1	—	1	—	2	3	—	2
	きものと羽織	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合 計		164	174	159	222	173	163	154	182	226	177	

① 合計が100%をこえるのは複数回答による。

第3表(2) 四季の服装(春・秋)

種類 年代	服装	家 庭 着					外 出 着					
		20代	30代	40代	50代	平均	20代	30代	40代	50代	平均	
洋	ブラウスとスカート	47%	49%	61%	54%	54%	33%	16%	12%	13%	17%	
	ブラウスとスラックス	20	21	13	9	16	6	6	4	4	5	
	ワンピース	16	17	18	15	17	51	62	54	33	52	
	ワンピースとセーター	6	6	13	15	10	11	9	13	15	12	
	セーターとスカート	44	56	56	61	54	22	16	13	17	16	
	セーターとスラックス	24	29	14	11	20	20	9	5	—	8	
服	ス	ニ ッ ト 系	—	6	6	11	6	16	21	42	44	32
	ツ		織 物 系	—	1	3	2	2	33	37	41	50
和	きもの	綿 織 物	—	1	3	4	2	—	1	1	2	1
		毛 織 物	4	8	19	30	15	4	6	16	35	14
		絹 織 物	—	—	2	7	2	7	20	38	63	31
		そ の 他	—	—	1	—	—	2	—	1	—	1
	きものと羽織	—	1	—	—	—	4	—	8	17	7	
合 計		161	195	209	219	198	209	203	248	293	236	

第3表(3) 四季の服装(冬)

種類 年代		家 庭 着					外 出 着					
		20代	30代	40代	50代	平均	20代	30代	40代	50代	平均	
洋 服	ブラウスとスカート	6%	8%	11%	15%	10%	4%	3%	2%	7%	3%	
	ブラウスとスラックス	7	6	6	7	6	4	6	3	7	5	
	ワンピース	6	9	8	11	8	38	42	32	24	35	
	ワンピースとセーター	2	9	9	15	9	20	11	16	11	15	
	セーターとスカート	47	47	56	46	50	20	18	13	17	17	
	セーターとスラックス	69	73	52	44	60	38	25	13	4	20	
ス ツ	ニ ッ ト 系	—	7	8	9	6	27	36	50	44	41	
	織 物 系	—	1	—	—	—	33	34	32	35	33	
和 服	き も の	綿 織 物	2	1	2	4	2	—	2	—	—	1
		毛 織 物	22	28	38	59	35	6	10	21	35	17
		絹 織 物	—	1	—	9	2	24	36	56	85	49
		そ の 他	—	—	1	—	—	2	—	3	2	2
	き も の と 羽 織	6	5	9	17	8	9	21	51	59	36	
	合 計	167	195	200	236	196	225	244	292	330	274	

1) 夏の服装

家庭着

「ワンピース」67%、「ブラウスとスカート」60%といった、涼しさを目的とした軽装が多く、
 年齢による服装の差異はみられなかった。

外出着

家庭着同様、「ワンピース」86%と最も多く、ついで「スーツ織物系」31%であった。若い人
 (20・30代)は「ワンピース」について「ブラウスとスカート」といった軽装ですまされてい
 が、年配者(40・50代)になると「ワンピース」について、「スーツ織物系」の改まった装い
 となるようである。

2) 春・秋の服装

家庭着

「ブラウスとスカート」、「セーターとスカート」との組合せが各々54%と最も多く、ついで「セ
 ーターとスラックス」20%の順となっている。

上衣は「ブラウス」および「セーター」で下衣は「スカート」または「スラックス」の組合せ
 である。若い人の下衣は「スカート」について「スラックス」を用いる人が多い。年配者になる
 にしたがって、下衣は一般的に「スカート」となる。また「ウール地のきもの」も多く用いられ
 ている。

外出着

「ワンピース」52%と最も多く、ついで「スーツ織物系」が40%であった。

20・30・40代では「ワンピース」や「スーツ織物系」が多く用いられ、50代では「絹布のきもの」が63%と非常に多かった。

3) 冬の服装

家庭着

冬は主に防寒を目的とする服装が多いため、上衣は主に「セーター類」で、「セーターとスラックス」60%と最も多く、ついで「セーターとスカート」50%、「ウール地のきもの」35%の順となっている。

年令的にみると、20・30代では「セーターとスラックス」、40代では「セーターとスカート」、50代では「ウール地のきもの」が最も多く用いられ、服装に年令的な差異がみられた。

外出着

「絹布のきもの」49%「スーツニット系」41%と多く用いられている。

年令的にみると、20代では「ワンピース」と「セーターとスラックス」が各々38%で洋装が多

第4表 和服・洋服の長所・短所

	和 服	回答数	割 合	洋 服	回答数	割 合
			309=100			309=100
長 所	冬あたたかい	91人	29.4%	活 動 的	195人	63.1%
	日本的な美しさをもつ	85	27.5	着用しやすい	129	41.7
	お ち つ く	77	24.9	経 済 的 (安価)	55	17.8
	流行に左右されない	57	18.4	手 入 れ 簡 単	38	12.3
	融 通 性 か ある	50	16.2	個性的装いかてきる	20	6.5
	復 雅 ・ 豪 華	46	14.9	夏は涼しくきられる	8	2.6
	ひ き し ま る	31	10.0	実 用 的	3	0.9
	更 生 か き く	22	7.1	更 生 て き る	3	0.9
	見 は え か す る	20	6.5			
	女 性 ら し い	15	4.9			
	未 記 入	29	9.4	未 記 入	14	4.5
合 計	523	169.2	合 計	465	150.5	
短 所	活 動 的 て な い	195人	63.1%	流行はけしく不経済	106人	34.3%
	手入れむすかしい	67	21.7	体型に左右されやすい	42	13.6
	着つけむすかしい	67	21.7	見 は え し な い	14	4.5
	高 価	37	12.0	冬 は 寒 い	13	4.2
	装 い 夏 は 暑 い	12	3.9	更 生 困 難	10	3.2
	個性的な装いにならない	1	0.3	スタイル気になる	8	2.6
				着こなしむすかしい	6	1.9
				不作法になりやすい	3	0.9
	未 記 入	26	8.4	未 記 入	109	35.3
	合 計	405	131.1	合 計	311	100.5

④ 合計が100%をこえるのは複数回答による。

く、30代では「ワンピース」42%、「スーツニット系」、「絹布のきもの」が各々36%といった和洋混交の服装であり、40・50代では「絹布のきもの」といった和装が多く、季節柄羽織もよく着用され、特に50代ではその傾向が著しい。

以上四季の主な服装から家庭着と外出着は区別され、家庭着には主に機能性や実用性に富んだものが選ばれ、外出着には改まった装いで特に上質のものを用いる傾向がある。

また服装には年令的な差異がみられ、20代では家庭着と外出着の区別はしているが、余り形式にとらわれることなく自由に大胆な服装を、30代では時には大胆に、またシックなものをと和服および洋服を適当に着こなしているようである。40代では和装も多く、洋装ではスーツ類でその下衣は主にスカートである。これは無難な装いであるために体型もカバーされるからであろうか。50代では夏をのぞき前述したように和装が多く用いられていた。これは生活の習慣性もあるであろうが、保健衛生上に注意を払われているからであろう。

6 和服・洋服の長所・短所について、

日常衣服の着用状態から和服・洋服の長所・短所についてみると第4表のとおりであった。

和服の長所としては「冬あたたかい」29.4%、「日本的な美しさをもつ」27.5%、「おちつく」24.9%、以下7項目であり、短所としては「活動的でない」63.1%と最も多く、「手入れ法」、「着つけ」が難しい各々21.7%、以下3項目であった。

洋服の長所としては「活動的」63.1%、「着用しやすい」41.7%、以下6項目であり、短所としては「流行がはげしく不経済である」34.3%、以下7項目であった。ただし、洋服の短所の未記入者が35.3%と非常に多かったのは、すっかり洋服生活に慣れた今日では無感覚となったせいであろうか。

すなわち、和服と洋服とはお互に相反する特徴をそなえているので、従来から和・洋服折衷式の衣服の考案など、いろいろ改良工夫されてはきたが和・洋服が歩みよって一つのものとなることは不可能らしく、各々の特徴を生かしながら、各人の生活に最も適した衣服生活を営む工夫が肝要かと思う。

IV 総括

以上の結果を総括すると次のようなことがいえると思う。

1 日常衣服の着用状態は「洋服が多いが時々和服を用いる」人が約79%と最も多く、若い人は和服を礼装用とし、年配者は次第に和服を好む傾向がみられる。これは前述したように生活の習慣性や保健衛生上からくる結果であろうか。

2 和服は民族衣装でありながら「着つけ」がむずかしいという問題がある。これは、「きもの」になれ、経験を重ねることが肝要かと思う。しかし、学校教育においても被服構成の和裁で「着つけ」についての指導を怠ってはならないと思う。

3 日常衣服については家庭着と外出着を区別する人が多く、家庭着としては機能性や実用性に富んだ型や材質が用いられ、外出着としては若い人よりも年配者ほど一定化された形式を選

び、スタイルや材質にも高級なものを望む傾向がみられる。

4 日常の服装から主に、20代では大胆さ、30代ではシノクで時には大胆に、40代からはおちつきある無難なものが望まれ、50代では更に保健衛生上のことを考慮した服装など年令的差異がみられるようである。

5. 主に和服には機能、手入れ、着つけ、洋服には流行、体型、経済などに関する諸問題がある。しかし、四季の服装を通じてみると、各人が和服・洋服の長所・短所をみきわめ、各人にふさわしい服装を用いているようである。そこで、和服および洋服の特徴を生かしながら各人の生活に最も適切な衣服生活を試みる工夫が必要かと思う。

6 服装は季節、好み、用途など種々の条件によって異なってくるであろうが、本調査では、洋服では「ワンピース」・「ブラウス」・「スカート」・「パンツロン」、和服では「ウール地のきもの」などが多く着用されていた。これらの点から被服構成においては、まず基本型や実用性を基礎とし、次第に服装美を考慮しながら被服構成の技術向上を計りたいものである。

最後に本研究について、御懇切な御指導を賜りました本学講師石田はる先生、ならひに調査に御協力くださいました藤根優子氏に、深く感謝の意を表します。

(本研究は、1975年6月 日本家政学会関東支部において発表したものである。)

参考文献

- 梶山藤子外 被服構成(上・下)(広川書店)
高橋春子、今井和子他 被服構成学(建帛社)
荒井純子、大江チエ、樋口ゑみ、井上民子、谷島久似 東京家政大学研究紀要第15集(1975)
伊藤花子 衣生活(1975 9)
清水房、石渡すみ江、大山サカエ 家政学雑誌 第26巻 第6号(1975)
杉野芳子 洋服と着装(同文書院)